


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【京都府立中丹支援学校】

1 実践テーマ	【Ⅲ、Ⅴ】
2 実施対象者	<p>小学部：1年男子2名女子3名、2年男子1名女子4名、3年男子1名女子4名、4年男子5名女子4名、5年男子6名女子5名、6年男子6名女子3名</p> <p>中学部：1年男子8名女子3名、2年男子6名女子5名、3年男子5名女子3名</p> <p>高等部：1年男子12名女子8名、2年男子10名女子9名、3年男子14名女子7名</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科名（体育）</li> <li>② 行事名（PTA親子レクリエーション）</li> <li>③ その他（特別活動、部活動、居住地校交流）</li> </ul> <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① イベント名（ ）</li> <li>② その他（ ）</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	<p>パラリンピック正式種目であるボッチャの用具（ランプ、八角の）を購入して活用することで、児童生徒がスポーツに関わりを持つとするとする気運を高めるとともに、自己肯定感のさらなる向上につなげる。</p>
5 取組内容	<p>1 小学部が遊びの指導の時間にボッチャに取り組んだ。肢体に障害のある児童が、購入したランプを活用することで、自ら主体的にボッチャに挑み、できたことへの感動を人間的な成長につなげることができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>2 小学部が校区の綾部市立綾部小学校で、居住地校交流（交流及び共同学習）としてボッチャに取り組んだ。ボッチャをとおして、友だち同士の絆を深めるとともに、地域とのつながりを広げることができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>3 高等部が体育の時間にボッチャに取り組んだ。どの生徒も購入</p>

	<p>した八角的に向かって真剣にボールを投げ、見事、的にボールが止まった時は、歓声を上げていた。</p> 
6 主な成果	<p>障害の種別、程度、有無に関わりなく、ともにボッチャを楽しみ、できたことへの感動を、児童生徒のさらなる人間的な成長につなげた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>肢体不自由の障害のある児童生徒が主体的に取組に参加できるようにランプを、さらに、障害のある児童生徒が見通しをもって取り組めるように点数表示付きの八角的を購入して効果的に活用した。</p>
8 主な課題等	<p>来年度は、スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学びという視点も取組に加えて行きたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>引き続き居住地交流等でボッチャに取り組むことで、障害者への理解・共生社会のさらなる形成につなげたい。</p>

白い玉を目がけて玉を投げ、ポッチャを楽しむ児童たち(福知山市私市・府立中丹支援学校)



## ポッチャの玉を狙え

福知山・中丹支援学校 児童ら。パラ競技体験

パラリンピックの正式種目「ポッチャ」を体験する授業が29日、福知山市私市の府立中丹支援学校であった。手足が不自由な児童たちが狙って球を転がし、腕を競った。ポッチャは、白い玉を目がけて、赤と青の玉を6球ずつ投げ、的の距離の近さを競う。1988年のソウルパラリンピックから正式種目となった。同校は昨年、スポーツの普及を目指す府の「オリンピック・パラリンピック教育推進校」として、体育や他校との交流授業など

で取り入れている。

この日は、小学部3年の稲津美咲さん(8)と6年伊浦百々果さん(11)が挑戦。的玉に狙いを定め、スロープ状の勾配員を使って玉を投げた。狙い通り玉が転がると「入った」と手をたたくて喜んだ。

(井上真央)

# 「ボッチャ」上手になつたよ

中丹支援学校 補助具購入し子らが練習

福知山市私市、府立中丹支援学校(菅生和己校長)の子どもたちが、パラリンピック正式種目のスポーツ「ボッチャ」を楽しんでいる。今年度は、さらに多くの子どもが競技に親しめるようにと、補

助具のランプ(勾配台)を購入した。

昨年、府のオリンピック・パラリンピック教育推進校の指定を受けた同校は、ボッチャを3セット導入。小学部から高等部までの児童、生徒が授業などで活用している。

ボッチャは運動能力に障害のある人も楽しめるように考えられたもので、直径約10センチ、重さ270gほどのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当たったりして、目標球にどれだけ近づけられるかを競う。自力でボールを転がせない児童もランプを使うことで

楽しめる。

このほど、小学部1

組の稲津美咲さん(8)と伊浦百々果さん(11)が授業でボッチャに取り組んだ。伊浦さんはランプを使い、身ぶりや目線でパートナーの教員にランプの位置を伝え、セットされたボ

ールを押しして転がした。

自力でボールを投げた参加した稲津さんは「ボッチャは楽しいです。練習してボールを遠くに飛ばせるようになりました。もっとやりたい」と笑顔を見せていた。



ランプでボールを転がす伊浦さん(右)とそれを見る稲津さん

# 「ボッチャ」で交流

## 綾小と中丹支援学校の児童

綾部小学校(上野町、村上元良校長)で5日、(福知山市私市)の児童同校のたんぼほほ学級(特別支援学級)の児童の正式種目「ボッチャ」



「ボッチャ」を楽しむ児童たち(上野町で)

を通じて交流を深めた。

「ボッチャ」は、重度脳性麻痺などで運動能力に障害がある人のために考案されたヨーロッパ生まれのスポーツ。ルールは白いボール(目標球)を投げたあと、対戦チームが赤と青のボールを交互に投げ合い、目標球にどれだけ近づけられるかを競う。

この日、ボールの投げ方やルール説明を聞いた児童たちはコツをつかみながらボールを投げ、競技を楽しんだ。終了後、「みんなとボッチャができて楽しかった」「思い出に残った」などと感想を話していた。

中丹支援学校の児童たちは「ボッチャ」の前に、綾部小の4、6年生ともゲームなどをして楽しんだ。【森川孝則】